

21 世紀政策研究所 第 60 回シンポジウム
「日本経済活性化のための外資活用とその規制のあり方」概要

＜2008 年 2 月 6 日（金）13 時 15 分～15 時 20 分

於 経団連会館 12 階 ダイヤモンドルーム＞

〔経団連会員企業・団体等から約 80 名出席〕

1．開会挨拶骨子（宮原賢次当研究所理事長）

未曾有の世界経済危機の中でも、グローバル化という大きな流れは後戻りすることはなく、わが国はその流れを最大限活用することが不可欠である。当研究所の中間報告では、わが国が外資を積極的に活用するためにも、外資規制のしっかりとした安全弁が必要であるとの結論に達した。今後、活発な政策議論を期待したい。

2．報告骨子（安田隆二当研究所研究主幹〔一橋大学大学院教授〕）

＜本年度の研究プロジェクトの 1 つである「企業価値向上のための外資活用策」の一環として、昨年 11 月に発表した中間報告「健全なグローバル化進展のために積極的な外資の活用を」骨子を説明＞

- ・ 対日証券投資、対日直接投資は過去 10 年程度着実に増加し、直接投資残高の伸び率（95 年比較で 07 年度の残高は 4.4 倍）は OECD 諸国の中でも第 2 位である。今後、成熟化した日本経済を高付加価値化させていくには、内外の活発な資本交流が不可欠である。
- ・ 外資系企業から見ると、法規制は日本への投資の主たる阻害要因ではない。規制があっても市場に魅力があれば投資は集まる。経済特区を設け、海外資本と国内資本の双方に投資のインセンティブを与える等により日本市場の魅力を向上させることが重要である。
- ・ 対日投資促進に際しては、ファンド等の金融資本よりも、長期的な企業価値の向上に寄与する製造業、サービス業といった産業資本からの投資を優遇すべきである。
- ・ 日本の現在の外資規制は列挙主義・事前届出制度・刑事罰制度を基本としているが、予見可能性が高い一方で、規制の抜け穴をつかれると有効な規制措置がとりにくい。ドイツやフランスも同様な制度であったが、見直し議論が進んでおり、わが国も安全保障や公の秩序の点から問題ある投資を事後規制できる制度の導入を検討すべきである。

3．講演骨子（ラルス・ヘンドリック・ルーラー 独 ESMT 学長）

- ・ ロシアなどの新興諸国から政治的な意図を持って行われる投資がもたらすリスクにどう対応するかは、欧州で深刻な問題となっている。経済危機を契機に欧州各国で保護主義が台頭する傾向が見られ、ドイツでは、業種を特定せずに「公共の秩序と安全」の観点から外資規制を行えるようによる法律改正が間もなく施行される見込みである。
- ・ 欧州における外資規制は、欧州全体で国境を越えた規制の枠組みを設けた上で、規制の執行は各国で行うことが最善である。

- ・ 独・メルケル首相が国連経済理事会の設置を提案しているように、世界経済のガバナンスを高める仕組みを考えるべきであり、保護主義の行き過ぎに警戒する必要がある。国単位の総合経済対策よりも、WTO ドーハラウンドの合意のほうが経済回復には有効であることが一例である。

4. パネル討議骨子

<パネリストはラルス・ヘンドリック・ルーラー ESMT 学長、杉山美邦読売新聞東京本社調査研究本部総務、阿達雅志ポール・ワイズ・リキンド・ギャリソン法律事務所顧問の 3 名。モデレーターは安田隆二当研究所研究主幹>

- ・ パネル討議では、経済危機の影響を受けての保護主義の台頭、ファンド・キャピタリズム、外資規制の 3 つの論点について活発な議論が行われた。
- ・ 阿達氏は、経済危機により米国の金融システムが機能しなくなっていることを指摘し、米国ではファンドに対する情報開示義務が強化されるであろうとの見方を示した。また、経済危機後に SWF の資金を米・金融機関などで受け入れているが、議決権は認めていないこと、昨年 11 月のエクソン・フロリオ条項の改正のポイントを説明した。
- ・ 杉山氏は、資源のない日本は戦後の自由貿易体制の下で成長してきた歴史があり、保護主義的な動きには警戒が必要なこと、外に向かって内外無差別の自由な国であることをアピールして外資の知恵を活用することの重要性を訴えた。一方で、現在の外資規制の枠組みでは、問題ありとされた外資に株式売却を強制できないなど、その実効性には問題があり、見直しが必要であるとの考えを述べた。
- ・ ルーラー氏は、ドイツやフランスで欧州域外からの投資に対して保護主義的な動きが出ていることを指摘し、開放性を堅持することが必要であると述べた。また、欧州向けの SWF による投資の功罪をケーススタディー形式で研究した実績があり、当研究所の参考になるのではないかとの示唆が示された。

以 上
(文責 当研究所)